

## 第4回 砂川市立小中学校統合準備委員会 会議記録

○日 時 令和5年10月19日(木) 18:00~19:47 (所要時間=1時間47分)

○会 場 砂川市役所 2階 大会議室

○出席者

【委 員】 13名

【教育委員会】 4名

【事務局】 5名

○傍聴者 3名

○議事記録

### 1. 開 会

2. 挨拶 統合準備委員会会長

### 3. 報告事項

- ・合同遠足について
- ・学校間連携事業について

#### 【議事の内容(要旨)】

事務局

- ・合同遠足について

合同遠足は、砂川市小中一貫教育推進委員会の特別部会であります小学校連携事業部会が主催で、中学校への進学に際し、事前に市内小学校5・6年生の児童の交流を持つことで児童の不安を解消すること、また、令和8年4月の義務教育学校開校に向けて段階的に交流学年を広げ、児童の人間関係づくりを円滑に進めていくことの2つを目的に今年度から実施した事業でありまして、市内の小学校5・6年生を対象に実施しました。まず、5校の5・6年生がバスで空知太小学校に集まりまして、出発式を行い、そこから歩き、途中で休憩をはさみながら、子どもの国まで遠足しました。子どもの国では、5年生はヤッホーの森、6年生は不思議の森で合同レクを楽しんだ後に昼食、自由行動でしたが、お弁当を食べる時も自由行動の時も他の学校の子と過ごしている子も多く見受けられました。参加者は5年生90名、6年生77名の合計167名でした。また、小学校連携事業部会の事業として、明日の10月20日金曜日に、6年生を対象とした5校交流会を総合体育館で実施しますので、次回の委員会の際に報告させていただきたいと思っております。

事務局

- ・学校間連携事業について

第1回目の本委員会では砂川小学校と豊沼小学校の5年生の田植え体験を報告し

ましたが、9月19日に稲刈りを実施しました。開始して30分程度で雨が降ってしまい稲刈り自体の時間は短くなってしまいました。脱穀の見学やグループに分かれて感想発表を行いました。感想では、「稲刈り作業の大変さを感じた」「他校の子と交流できてよかった」などの感想がありました。続いて学校間連携事業の2点目、3校での「外国語活動」は、本日の午前中に中央小学校・豊沼小学校・北光小学校の6年生が中央小学校で外国語活動を行い、9月21日木曜日には、5年生が実施しています。内容は、英語で自己紹介をしたり、好きなものを聞いたり、誕生日を聞いて誕生日順に並ぶゲームなどを行いました。なお、この外国語活動は、11月と12月にもそれぞれ5年生と6年生で予定されていますので、都度、本委員会にて報告させていただきたいと思っております。

質疑、意見等 特になし

#### 4. 協議事項

- ①義務教育学校の学校名について
- ②義務教育学校の校歌について
- ③スクールバスの運行について

#### 【議事の内容（要旨）】

事務局 ①義務教育学校の学校名について  
9月1日から10月2日まで実施しました学校名の公募は、応募件数183件であり、議案には本人の意思を尊重する意味で、誤字と思われる部分も修正せずに原文のまま記載しています。今回は、第2回目の本委員会で確認いただいた5つの学校名候補の選定の視点、「砂川をイメージできる校名」「覚えやすい校名」「書きやすい校名」「言いやすい校名」「親しみや愛着を持てる校名」を重視して3案程度に選定させていただきたいと思っております。議案には今回応募のあった学校名の中で、多く寄せられたものとして、5件以上応募のあったものを記載しており、一番多かったものは、「砂川学園」になりますが、これは平仮名表記やアルファベット表記、学園の「園」が円形の「円」の字のものも含み18件寄せられ、応募総数の10%程度になります。その次に多かったのは16件の「砂川小中学校」、続いて10件の「砂川義務教育学校」、5件の「砂川学校」と「砂川小中一貫校」となります。また、砂川がついている学校名が、「砂川学園」「砂川小中学校」などの「砂川+校種名」のものが71件、「砂川みどり学園」「すながわ学びの学舎」など「砂川〇〇」というものが14件、「砂川市立小中学校」など「砂川市立+校種名」のものが14件となっており、「砂川」がついている学校名は99件で半数以上を占めています。応募のあった183件の傾向として、小中学生は「砂川学園」「砂川小中学校」「砂川市立小中学校」などシンプルなものが多く、大人は「オアシススクール」「すずらん学園」といった少し捻った学校名が多かった印象がありました。選定に入る前に、本日委員のみにお配りしたニュースの記事をご覧ください。他市で起こった出来事ですが、学校統合の際に学校名を公募した後、学校統合準備委員会で決定したものを住民の反対の声がありながらも、条例案が議会で可決されましたが、

その選んだ校名が公募で1人しか意見の出なかった学校名であったということが問題となり、住民から条例の廃止を求める直接請求がありました。その後、市長がその条例を廃止する議案を提出して、再度統合準備委員会で校名を選定し、違う学校名で決定したという事案になります。このことから、今回公募という手法をとっていますので、基本的には多く寄せられた意見を選定の対象にすることが妥当であるという考えもありますし、また、明確な理由がなければ、少数の意見が選ばれた場合の説明がつきにくいと考えました。事務局としては、今回の結果を見る限り、多くの意見が寄せられた学校名が候補になりえると考えていますが、協議し、3案程度に選定いただきたいと思います。

会長

私は事務局と事前に打合せをして「どのようにまとめますか」という話をしている中で、今回提示した他市のニュース記事を提示するようにお願いしました。皆さんの中には、校名を応募した人もいますし、このような事例もあるということを考慮しながら選定していただきたいと思います。もし3つに選定できないときは5つを選定しても良いですが、どのように決めるかが難しいところです。参考までに、私と副会長が気になった校名をいくつか紹介させていただきます。「空知野学園」は、「空知」に「野」をつけた名前ですが、「砂川」という文字は付いていませんし、「空知」というと地域が少し広すぎる気もしますが悪くはないと思います。一番応募があった「砂川市立砂川学園」「砂川市立すながわ学園」は最も体を表している名前のような気がしますが、ひらがなも良いと思います。

「砂川吉野学園」は、「吉野」は「良い」とか「美しい野や山」といった意味もあり、「義務教育学校」だと文字も多くて手書きする場合も煩雑になるため、小学1年生からでもしっかり学校の名前が言える端的で明快な学校名が良いと思います。「すずらん学園」は、砂川の市の花である「すずらん」が入っていてとても良い校名だと思うのですが、実は札幌の市の花も「すずらん」ということで採用は難しい校名だと思います。「すながわの森学園」「砂川みどり学園」は、水と緑あふれる公園都市である砂川市というような意味合いが良いと思います。「オアシス」と付く校名は、砂川のオアシスパークを連想させたり、「オアシス＝癒し」という意味があったりして良いと思います。「にじの鐘学園」は、小中学校7校が統合されるので、7色を表す虹を表現し、砂川中学校のシンボルである「カリヨンの鐘」を継承する校名です。「ひかり学園」も5件の応募がありました。「学びの森学園」は、砂川市義務教育学校の整備方針である「学びの森」という表現を使った校名です。以上が私と副会長の気になった校名になりますが、それ以外に皆さんの候補があると思いますので、これを踏まえて皆さんの意見を聞かせてください。

委員

応募された校名の中からいくつか校名を選んで、選ばれた校名の中から小中学生達に1つだけ選んでもらう形だと思うのですが、例えば小学生が、漢字の校名かひらがなの校名かどちらを選ぶか考えると、読みやすさからひらがなの校名が選ばれると思います。そのようなことも考えながら選定しないと駄目だと思いますし、一目見たときに小学生が理解できるか、できないかということもあり、選定するのはとても難しいと思いました。

会長 一応言っておきますが、皆さんから意見を聞いて新しい校名を出すことはありません。他、意見ありますか。

委員 校名への愛着というのは、学校に通ってから湧いてくるものだと思いますし、新しい学校は砂川を代表する学校になるので「砂川学園」が一番良い校名だと思います。特に変わった校名にしなくても、砂川の学校ということが分かって、通い始めた生徒達が愛着を持ち、地域に浸透していくという形が一番自然だと思いますので、砂川を代表する学校だと分かる校名を選定するのが良いと思います。それから、新しい学校は「中学1年生・中学2年生・中学3年生」とはならないで「7年生・8年生・9年生」となるので、校名が「小中学校」になってしまうと「中学校なのに7年生なのか」という混乱が発生してしまうと思うので「砂川学園」や「砂川義務教育学校」が良いと思います。

会長 他、意見ありますか。

委員 3つ選ぶとしたら、1つは、「砂川学園」のようなシンプルな「砂川〇〇」という校名を選んで、あとの2つは、砂川市をイメージする「オアシス」「すずらん」などを含んだ校名を選べば、子ども達が投票したときに「シンプルなものが良い」「砂川をイメージしてもらえるものが良い」という意見も分かるので良いと思います。

会長 議案に5件以上応募のあったものが応募数の多い順に記載されていますが、たしかに義務教育学校に「小中学校」という校名は少しイメージと違う気がします。他、意見ありますか。

委員 私も「砂川」という言葉が入った校名と砂川をイメージできる校名の両方から選ぶ案が良いと思います。

会長 他、意見ありますか。

委員 本日頂いたニュースの記事を見ると「学校の名前を選ぶにも色々なリスクがある」と感じていましたが、多数決で選ぶことも必ず良いということではないと思います。それは、校名の理由を見たときに「特になし」「砂川市だから」というのは理由といえば理由ですが、大事な校名を決めるので、「思い」という部分を統合準備委員である我々はしっかり見ないといけないと思うからです。また、「砂川〇〇」というように「砂川」が入っている名前が良いと思います。なぜなら、部活動などの対外的な活動があるときに、「砂川」の名前が入っていない花の名前の校名とかだと土地に対する気持ちや誇りがあまり生まれませんし、土地を大事にする気持ちも対外的な活動などで芽生えてくるのだと思います。

会長 他、意見ありますか。

- 委員 議案には、応募が多いものから順に校名が掲載されていますが、このようなものも参考にして、砂川市内に1つの学校となり、すべての子ども達がこれから何十年、何百年と通うことになるので、子ども達一人一人が心に刻めたり、あるいは卒業後も誇りや思いを持てたりするような校名にしなければいけないと思います。ですから、「オアシス」「すずらん」などの一人でも砂川をイメージできない校名は良くないと思います。また、他市が校名を決める際に住民から直接請求された例もあるので、数も大事にしないといけないと思うので、議案に記載されている5つの中から適当と思われるものを3つ程度に絞り込んで、児童生徒・市民に意見を聞くのが妥当だと思いますし、それが公募した過程を大切にすることにつながると思います。
- 会長 他、意見ありますか。
- 委員 3つに絞るのも良いですが、「砂川〇〇」とするなら『漢字』『ひらがな』どちらが良いか『学園』『学校』『義務教育学校』のどれが良いかという選択肢にするのも良いと思います。
- 会長 本日校名を3つ程度に選定した後に子ども達に投票していただくということによろしいですか。
- 事務局 今回3案に選定いただき、この後は児童生徒の投票形式で選定作業を進めさせていただければと思います。
- 委員 「ひらがな」か「漢字」という選択を与えられたら良いと思います。応募が多かったこととシンプルな校名なら覚えやすいと思うので「砂川〇〇」が良いと思います。
- 会長 他、意見ありますか。
- 委員 校名の最後に「学園」と付くものが75件で4割以上を占めており、「学校」よりも「学園」が多いので校種は「学園」で定まったのではないかと思います。あとは、「砂川をイメージできる・覚えやすい・書きやすい・言いやすい・親しみや愛着を持てる」という候補選定の視点を考えると「砂川学園」が良いと思います。あとの2件は、応募数が多い5件の中から選択しても、他の校名から選択しても良いと思います。
- 会長 他、意見ありますか。
- 委員 183件の中から投票するのも厳しいと思いますし、分かりやすい校名となると「砂川」が入ることになると思います。あとは、「砂川小中学校」と「砂川小中一貫校」ですが、小中学校ではないので、候補から外さないといけないと思います。そして、「砂川学園」など「学園」が付くものが非常に多いのですが、色々な学校

が「学園」という校名を使っているので、義務教育学校ということが分からない可能性があります。

会長 他、意見ありますか。

委員 応募された多くの校名を見て、校名を決めるのはとても難しいことだと思いました。先ほど事務局から提示されたニュースを報道で見たときに「校名を公募するところということも起こるのだ」と思いましたので、他の委員も言っていたように「公募する意味」という原点に帰って考えた方が良いと思います。また、「応募された校名を工夫して新たな校名を作る」というのは応募していただいた人のことを考えたら良くないと思います。それから、応募が多かった5つの校名の内、「小中学校」というのは違うと思うので外すべきだと思いますし、「学園」は公立か私立か分からないと思うので「砂川市立砂川学園」となるなら良いと思います。選定方法はシンプルに、応募が多かった5つの校名の中から委員が1つ選択して、多かった3つを子ども達に投票してもらうのが良いと思います。

会長 他、意見ありますか。

委員 他の委員達も言っていますが、公募を行った目的を考える必要があると思います。その理由は2つあり、1つは今後決定する、あるいは、決定に至る過程を可視化した時に説明するため、もう1つは、1つ目と少し相反し、「誰も気が付かない素晴らしいものを見つける」ということも考えられますが、先ほどの他市のニュース記事を見るとうまくいっていません。私が考えるに、他市の委員達がどこまでの権限があったのかは分かりませんが、「誰も気が付かない素晴らしいものを見つけた」と思って、民主的に正しい手続きを行ったのだと思います。その手続きは、間違ったものではなかったと思いますが、やはり、「数」というものは大きな要因だったということが分かります。ただ、純粋に応募数が多かった校名は「誰も気が付かない素晴らしいもの」ではないので、私達が「この校名は応募数が少ないが俎上に載せるに値する」というものを、責任をもって選定して、子ども達に投票してもらうのが良いと思います。

会長 他、意見ありますか。

委員 以前に「どのように校名を決定するか」と協議したときに、「多数決で決定しないで、数を参考に委員達の意見を大事にして決定するのが良い」と意見を出しました。そして、公募した最初の理由としては、「校名決定に多くの人に関わる」ということが目的だったと思いますので、多数決で決定するのではなく「思い」を大事に決定したら良いと思います。委員達がそれぞれの選定基準を持っているので、それぞれ良いと思う校名を出し、それを集計して選定するのが良いと思います。

会長 「小中学校」「小中一貫校」というのは、間違いではないと思いますが表裏的に

でしょうか。皆さんの意見から「数」も大切にしたいと思いますが、せっかく応募いただいた少数派も大切だと思うので、応募された校名の中から委員に1つずつ校名を出していただいて、「数」も大切にしながら5つくらい案を出すのも良いと思います。ただ、校章の作成にも影響すると思うので、今日、校名の案を決定できれば良いですが、今すぐに183件の中から1件を出すのは難しいと思います。他、意見ありますか。

委員 校章のデザイン作成は、砂川中学校の美術部がプロのデザイナーと取り組んでいます。校名がイメージできないと校章のデザイン作成も遅れてしまいますし、3年生は高校入試を控えているので、時期が延びると参加できなくなってしまうため、校名の決定は早い方が良いと思います。

事務局 先ほど協議がありました「小中学校」「小中一貫校」という校名につきまして、道内や他県に「〇〇小中学校」という校名の義務教育学校や、他県に「〇〇小中一貫校」という校名の義務教育学校がありましたので、採用されたとしても間違いとはなりません。

委員 まず、他市の事例がありましたが、決まらなかった校名には地域のシンボルとなっている山の名前が入っていて、決まった方には地域のシンボルとなる名前が入っていなかったということは、「校名には地域のシンボルとなる名前が入らないといけない」というような協議がされていなかったことが考えられますので、会議の過程を考えても、1票の案を採用したことが悪いのではなく、採用した内容が悪かったのだと思いますし、他の委員が言っていたように、「1票でも、2票でも俎上に載せるに値する校名」というものはあると思います。それから、『小中学校』『小中一貫校』という校名の義務教育学校はどうか」という協議ですが、小規模な学校の校名であれば良いと思いますが、北海道の中でも砂川の学校は大規模な学校になると思いますので、紛らわしい校名は選定から外した方が良いでしょう。

会長 「小中学校」と「小中一貫校」という校名を選定対象から除いてよろしいですか。

事務局 協議の結果であれば、「小中学校」と「小中一貫校」という校名を選定対象から除いても良いと思いますが、先ほど委員が「小さな学校であれば『小中学校』や『小中一貫校』という校名でも良い」と言っていたのですが、他県では新築の義務教育学校にも使われている校名ということはお伝えしておきます。

会長 1人1つずつ良いと思う校名を提案していきますか。

委員 質問なのですが、今回、3案を選定し、各学校で良いと思う校名に投票していただいて、投票結果を統合準備委員会で確認した後に校章を作成するという順番ですか。

事務局 順番はそのようになりますが、例えば「選定した校名のすべてに『砂川』という言葉が入る」ということがあれば、先に美術部に情報を伝えさせていただきます。

会長 今日、校名を選定したいと思います、少数の校名も選定対象に入れますか。

委員 今、183 件の中から 1 つの校名を急に選ぶのも難しいと思います。

会長 2 週間くらい期間を空けて、1 人 1 つずつ校名を選んでから委員会を再開しますか。

委員 手続き上「今日選定しないといけない」ということも考えられるので、一旦休会して、事務局と会長で相談するのが良いと思います。

会長 そうですね。一旦休会します。

#### 【休憩】

会長 再開します。このまま選定作業に入っても決められないと思います。そこで、近日中に再度会議を開きますので、応募が少なかった校名も選定対象とするか、応募数が多かった 5 つの校名を選定対象とするか決めておいてください。

#### ②義務教育学校の校歌について

事務局 令和 8 年度に義務教育学校が開校するにあたり、校歌を検討する必要があり、他の自治体では、新たに校歌を作ったり、既存の学校の校歌をそのまま利用したりと様々です。新たに校歌を作る際には、開校前に作成する場合や、開校後に校歌を作成するプロジェクトを立ち上げ、開校から 1 年後に校歌を作成する場合もあり、検討事項としては、作詞や作曲、作成の時期をどうするかなどがあります。また、現在の校歌を利用する場合は、どこの学校の校歌を利用するかなどの検討が必要になります。作詞は、現砂川中学校のように生徒が作詞している事例や、教員が作詞している事例、専門家に依頼している事例、公募している事例など様々な事例がございます。作曲についても同様に、生徒や教員が作曲している事例や、専門家に依頼している事例、地元ゆかりのある音楽家に依頼している事例など様々です。今回は、何かを決めるのではなく、皆さんから意見を伺い、いただいた意見を踏まえて、次回以降に事務局から案を示させていただきます。

会長 以前、砂川出身の歌手に作っていただいた石山中学校閉校記念ソングや青年会議所と砂川出身の歌手がイベントで一緒に作った曲も校歌の候補になると思いますし、砂川中学校の校歌をそのまま使うということもあると思います。私は、慣れ親しんだ各学校の校歌を踏まえた校歌が一番良いと思いますが、他、意見ありますか。

委員 例え、砂川中学校の校歌が義務教育学校で採用となった場合に、中学生は歌えるレベルの校歌だと思うのですが、小学校の低学年ぐらいの子どもも歌うことはできるレベルなのですか。

委員 何校か小学校の校歌を聞いたことがありますが、中学校の校歌には難しい歌詞を使っているのです、歌いやすさは全然違います。練習すれば歌えるようになると思いますが、小学生が砂川中学校の校歌を歌うのは難しいと思います。

会長 中学校の校歌を利用するのは難しそうです。具体的に、砂川出身の歌手にお願いするのはどうですか。

委員 数年前に青年会議所で、砂川を離れて遠くへ行っても砂川のことを思い出せる曲を作るというプロジェクトがあり、その曲を砂川出身の歌手と一緒に作ったことがあります。その曲は、砂川市内と近辺の学校や廃校した学校の校歌からみんなの心に残る歌詞を集めて、青年会議所が作詞して、砂川出身の歌手に歌詞の構成と曲付けをお願いして完成させました。現在、現役の青年会議所メンバーがその曲を砂川に新しく開校する義務教育学校の校歌にするため、今の子ども達に曲を知ってもらおう活動しており、この間も市内のイベントで子ども達 1,000 人と砂川出身の歌手と一緒に歌うという事業を行いましたので、この曲も校歌の候補に挙げていただきたいと思います。

会長 その曲の歌詞には、市外の校歌の歌詞も使われているのですか。

委員 歌詞の参考にしたのは、当時砂川にあった小学校 5 校と中学校 2 校、それから砂川で閉校した小学校 5 校、そして、歌詞としてはほぼカットされてしまった上砂川で閉校した学校の校歌です。

会長 上砂川を連想する歌詞は出てこないということですか。

委員 砂川を連想する歌詞ばかりです。

会長 そのまま採用できるのか協議が必要だと思いますが、そのような曲もあるということをお聞きください。他、意見ありますか。

委員 学校では、青年会議所と砂川出身の歌手がイベントで一緒に作った曲を昼の放送でしばらく流していて、郷土への思いがあって良い曲だと思いましたが、校歌に限られた時間の中で歌うので、3 番まである曲は少し長すぎると思います。それから、曲の中に懐かしさを感じて心地良かったので砂川出身の歌手にお願いするのは良いと思いますが、今まで聞いてきた校歌と曲調が違うことが気になったので、一般的な校歌と同じような曲調で作成してもらった方が良いと思います。

委員 校歌の作成は、人生の中で一度だけの経験となると思うので、子ども達に関わ

ってほしいと思いますので、開校後に、子ども達みんなの想いを砂川出身の歌手に作詞作曲してもらうのが良いと思います。現存の校歌を参考にするのも良いと思いますが、子ども達には貴重な経験をしてほしいと思います。

会長 校章の作成は、プロのデザイナーと砂川中学校美術部の生徒と一緒に作業を進めていますが、校歌も砂川出身の歌手と子ども達が一緒に作業して作成するということですか。

委員 そのとおりですが、1年生に意見を出してもらうのは難しいかもしれませんが、意見を吸い上げる方法を見出しつつ、上級生が中心となって作成するのが良いと思います。

会長 開校後に校歌を作成するというのは、どうなのでしょう。

委員 良いと思います。

委員 私も良いと思います。子ども達は、新しい校舎で生活することになるので、その雰囲気や色々な人達と関わっていく環境の中で1年かけて作ったり、子ども達の中には才能を秘めている子もいたりするので、子ども達が主体に校歌を作成するのは良いことだと思います。

委員 開校後に校歌を作るのは良いと思います。実際に聞いた事例では、新しい校歌が完成するまでは「手のひらを太陽に」を校歌として歌っていた学校があります。校歌の歌詞には、地元の言葉や思いが加わると良いと思いますが、そのような歌詞が出てくるまでには時間が必要だと思うので、既存の校歌を活用して対応するのも良いと思います。

委員 私は他の委員とは意見が違いまして、開校初年度は校長の責任の下、色々なことを想定して教育課程を編成するのですが、子ども達が700人ほどいる学校で校歌を作成する時間があるとは思えません。実際に開校しないと分かりませんが、色々なことを手探りで行う初年度に校歌を作るプロジェクトを立ち上げるというのは難しいと思います。

会長 他、意見ありますか。

委員 開校後に校歌を作成するのは良いと思いますが、各学校から音楽が得意な生徒や作成意欲のある生徒が集まって、開校までに校歌を作成するのも良いと思います。開校した時に校歌がないと暫定的な歌を歌うことになると思いますが、開校した時に一緒に作った校歌を歌えたらすごく良いと思います。

会長 校歌の作成には子ども達も関わった方が良いという意見が多かったと思います。次回以降は、校歌の作成を開校前にするか、開校後にするかという協議にな

ると思います。

続きまして、「③スクールバスの運行について」事務局より説明をお願いします。

### ③スクールバスの運行について

事務局

前回までの確認事項ですが、前回会議にて示したのは乗車対象者を決定する上での考え方と、その考え方を基にした、いくつかの乗車基準、乗車対象者、分布図等でしたが、会議の中では、安全面と体力面のことや季節別の運用、新たな基準案、概算の必要経費などが意見として出ていました。本会議も引き続き乗車対象者の基準を協議いただきたいと思いますが、本会議の内容としては、前回会議でいただいた意見を踏まえて、再度乗車基準に対する意見をいただきたいと思います。乗車対象者の基準として前回事務局が提案した基準以外に「1st ステージで2km以上、2nd及び3rd ステージで3km以上」という案が出たため、内容を整理しました。乗車対象者数ですが、1st ステージが157人、2nd及び3rd ステージが139人、合計で296人となります。前回会議にて示した基準と比較すると、おおむね1st・2nd・3rd ステージごとに2・3・4kmで分けた際の人数に近い形となります。次に乗車対象者数の推計ですが、記載の4パターンの乗車基準から算出した乗車対象者数を比較したもので、いずれの基準も開校から令和18年度までには、おおむね50から60人程の児童生徒が減少しています。経路等の考慮要素もあるので単純に乗車人数がバスの台数とはなりません。減少の推移からすると1から2台程度使用するバスが減る見込みとなります。次に夏期・冬期で異なる運行の実施ですが、前回会議にて、児童生徒の体力面と安全面を協議いただいた中で、夏期は体力面を考慮し基準を遠距離に、冬期は安全面から近距離に、など時季で運用を変更するような意見がありましたが、いくつか懸念事項が考えられ、具体的には、利用者の煩雑さに繋がることや年間通して使用するバスの台数を購入するため全台数に維持費がかかりますが、そのうち一定期間使用しないバスがあると効率的ではないことなどが考えられ、事務局でも検討を重ねた結果、バスの利用自体は任意であるため、各家庭の判断に委ねることとし、運行は年間一律した基準で運用する方向で進めていきたいと考えています。次に「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」についてですが、保護者の視点や教職員の視点からも共通して、児童生徒の体力面が心配であるとの意見を頂きましたので、直近で公表されている調査結果を提示します。まず、小学生の結果ですが、体力の合計点では、男女とも全国平均を下回っており、特に男子は全国平均との差が大きい状況となっています。また、持久力が必要となる「シャトルラン」に課題が見られ、持久力を付ける運動などを意図的・計画的に体育の授業などにおいて取り扱っていく必要があるとのことです。続いて、中学生の結果ですが、体力の合計点では、男女ともに平成30年から令和3年まで全国平均を下回っていて、令和4年は女子のみ全国平均と同程度となっています。そして、持久力が必要となる「シャトルラン」に課題が見られることから、これらを意識した運動を意図的・計画的に体育の授業などにおいて取り扱っていく必要があるとのことです。以上の結果を要約すると体力の合計点について、平成29年から令和4年までを全体的にみると、小学生・中学生ともに全国平均を下回っており、特に持久力を必要とする種目が課題とされているため、毎日の通学が児童生徒の

体力に少なからず影響する面もあるのではと考えられます。よって安全面も重要な要素ではありますが、その中で体力面も考慮しながらどのように折衷案を決めていくのが課題となります。最後にスクールバスの運行に伴う費用ですが、バス購入費は、一般的な価格として大型バスで約 3,500 万円、中型バスで約 2,500 万円、小型バスで約 1,500 万円となります。次に現在の中学校のスクールバスと同様にバスを購入し、運行のみを委託した場合、条件は異なりますが、現行走行している中学校のスクールバス委託料や空知管内のスクールバス委託料の平均を見てみると 1 台あたり年間で約 550 万円となります。次に、例として現在中学校で運行する中型バスの規格で委託すると仮定した場合の必要台数と費用ですが、基準を前期課程 2 km、後期課程 3 km 以上とした際、人数と経路を考慮すると中型バス 10 台が必要となり、イニシャルコストとして購入費が既存の 3 台を除く中型バス 7 台、掛けることの 2,500 万円で 1 億 7,500 万円がかかり、ランニングコストとして 10 台の運行委託料で年間 5,500 万円となります。今ほど申し上げた歳入については、現時点での平均的な費用であり、今後決定していく乗車対象者の基準や、運行経路、運行内容、委託方法や購入するバスの規格、台数によって費用は変わりますので、検討・協議する中で、都度、近い金額を示していければと思います。続いて歳入ですが、現行のバス購入でも活用したへき地児童生徒援助費等補助金において、1 台あたり 375 万円が令和 4 年実績で示されています。

会長 前回いただいた意見を基に、乗車対象者の基準を 1st ステージが 2 km 以上、2nd・3rd ステージで 3 km 以上とした場合と、冬期の運行に関する説明がありました。それから、前回の委員会で意見があった「体力の問題」を踏まえて資料を示しましたが、子ども達の体力がかなり低下していることも分かりました。まず、「1st ステージが 2 km 以上、2nd・3rd ステージが 3 km 以上」とするか、「前期 2 km 以上、後期 3 km 以上」とするか、意見ありますか。「境目はどうするか」というのは別の協議になりますが、この基準が決まれば、それに沿って全てが決まっていくことになると思います。私は、スクールバス乗車対象の子ども達も歩いてほしいと思います。

委員 旧石山中学校区の子ども達が中央小学校の前を自転車で乗って通学している姿を見て、部活動が終わった後は道が暗いので安全面に十分注意しなければいけないと思いますが、持久力が付くので、体力面では良いことだと思います。私も会長が言っていたように、スクールバス乗車対象でも「みんなが歩くから私も歩く」と言って、歩いてくれる小学生がいてくれたら嬉しいです。

会長 それでは、乗車基準を年間では変えずに「1st ステージが 2 km 以上、2nd・3rd ステージが 3 km 以上」と決定してよろしいですか。

事務局 事務局としては、本日乗車基準を決定するのではなく、今回いただいた意見を基に、次回以降に再度協議させていただければと思います。

会長 事務局から新たな案が出ましたら、再度協議をお願いします。

## 5. その他

### 【議事の内容（要旨）】

- 会長 次回の日程を事務局より、お願いします。
- 事務局 次回は、第5回として、校名の検討を行いますが、日程については早めに調整し、お伝えさせていただきます。また、校名以外にも制服などを決めなければなりませんので、第6回を11月28日火曜日18時から市役所2階大会議室で開催したいと思います。
- 会長 第6回は、11月28日火曜日18時から大会議室で開催します。それでは、第4回砂川市立小中学校統合準備委員会を閉会します。皆さん、ありがとうございました。

以 上